

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2022年6月分)

2022年7月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[総選挙実施に係る予算の部分的承認\(6日\)](#)

●[総選挙予算に係るボン・パワー行使\(7日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[対露関係等に関するRS国民議会の結論文書採択\(6日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[BH政党代表のブリュッセル訪問\(12日\)](#)

●[EU・西バルカン首脳会合及び欧州理事会\(23日～24日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ドディック大統領評議会メンバーのロシア訪問\(17日～18日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[伊藤大使のサラエボ大学哲学部での特別講義及び在外公館長表彰式\(10日\)](#)

●[伊藤大使のイエゼロ市・すさみ町間の姉妹都市協定締結式出席\(30日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標

(2) 経済政策・公共事業

●[燃料となる木材の輸出一時禁止\(15日\)](#)

(3) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●総選挙実施に係る予算の部分的承認(6日)

閣僚評議会により2022年の国家予算が承認された一方、以前より問題となっていた、選挙資金1250万KMの未執行予算からの割り当てという中央選挙管理委員会(CEC)の要求はベバンダ財相により引き続き承認されなかった。

他方、ベバンダ財相は通信規制庁(CRA)予算から972.8万KMを選挙実施のために割り当てるとの提案を行い、閣僚評議会は右を承認した。

●総選挙予算に係るボン・パワー行使(7日)

6日の閣僚評議会による国家予算の承認及び総選挙資金の部分的拠出決定を受けて、シュミット上級代表はボン・パワーを行使し、中央選挙管理委員会(CEC)の求める1252.8万KM満額を同機関に割り当ててことを命じた。

●第3回プライド・パレードの開催(25日)

サラエボ市中心部で第3回プライド・パレード(性的少数者の権利向上を訴える集会)が行われ、約1500名が市中心部の通りを行進した。サラエボにおける同パレードの開催は2019年、2021年に続くものであり、フォルト・サラエボカントン首相、アルナウトBH下院議員等、BH政治家のほか、当地独大使、オーストリア大使、オランダ大使等が参加した。

(2) エンティティ、特別区

イ スルブスカ共和国

●対露関係等に関するRS国民議会の結論文書採択(6日)

RS国民議会は国家管轄権の再移管に関する臨時会合を実施した。本会合で採択された結論文書において、対露制裁不参加及びロシア・ウクライナ関係に係る中立的姿勢の維持、

EUFORのBH駐留継続支持、客年12月採択の結論文書によるBHからRSへの国家管轄権移管の6ヶ月延期等が明記された。

●RS国民議会における露大使演説(6日)

カラバホフ駐BHロシア大使はRS国民議会において演説し、 Dayton 和平合意の尊重を訴えるとともに、諸外国によるRS要人への制裁及びBHへの介入について批判した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●テゲルティヤ閣僚評議会議長の「オープン・バルカン」サミット出席(8日)

テゲルティヤBH閣僚評議会議長はオフリド(北マケドニア)で行われた「オープン・バルカン」サミットに出席し、BHの「オープン・バルカン」イニシアティブ参加について国内の合意が取れない状況にあると述べつつも、経済的ポテンシャルを生かすために将来的な参加を実現させる旨述べた。

●BH政党代表のブリュッセル訪問(12日)

ミシエル欧州理事会議長の呼びかけにより、BH大統領評議会3メンバー及びBH各政党党首がブリュッセルを訪問し、EU加盟に向けたBHの機能性確保にかかる合意文書に関し一致した(署名は行われず、合意を支持する政党名を記載)。セルビア系野党(PDP、DN S)は反対を表明した。

チョービッチHDZ党首はブリュッセルを訪問した一方、コムシッチBH評議会クロアチア系メンバーとの同席を拒否し、合意文書に係る会合に出席しなかった。ボシュニャク系野党SBB党首及びセルビア系野党SDS党首はブリュッセルを訪問しなかった。

●EU・西バルカン首脳会合及び欧州理事会
(23日～24日)

ジャフェロビッチBH閣僚評議会議長は、ブリュッセルにおいて開かれたEU・西バルカン首脳会合に出席した。同会合及び欧州理事会会合において、モルドバ及びウクライナへのEU加盟候補国地位の付与が決定された一方、BHへのEU加盟候補国地位付与については、引き続き改革を進めていくことが求められた。

(2) 二国間関係

●ドディック大統領評議会メンバーのロシア訪問(17日～18日)

ドディックBH大統領評議会セルビア系メンバーはロシアを訪問し、プーチン大統領、ラブロフ外相及びガスプロム社長等と会談を行ったほか、サンクトペテルブルク・ビジネスフォーラムに出席した。

訪問においては、RSが対ロシア制裁に加わらないとの姿勢が再確認されるとともに、ロシア産ガスのRS向け輸出価格の据え置き、RSにおける新規ガスパイプライン建設等について意見が交わされた。

ドディックメンバーは、西側によるBHへの影響力行使及び対ロシア制裁を厳しく批判した。

●チャヴシュオール・トルコ外相のBH訪問(17日～18日)

BHを訪問したチャヴシュオール・トルコ外相はジャフェロビッチBH大統領評議会議長、コムシッチ同クロアチア系メンバー、トウルコビッチ外相及びシュミット上級代表と会談し、地域情勢及び両国経済関係等に関し意見を交わした。

チャヴシュオール外相は、地域の安定におけるBHの役割の重要性に言及し、RSの分離

主義的傾向についても、対話を通じて合意を形成していくべきであるとの見方を示した。

(3) 日・BH関係

●伊藤大使のサラエボ大学哲学部での特別講義及び在外公館長表彰式(10日)

伊藤駐BH日本国大使は、サラエボ大学哲学部日本語教室にて特別講義を行い、日・BH関係及び大使館業務等について紹介した。

また、伊藤大使は、同学部で日本語指導者として活躍する宮野谷希氏に対し、在外公館長表彰を授与した。



(写真:伊藤大使と宮野谷氏)

●伊藤大使のイエゼロ市・すさみ町間の姉妹都市協定締結式出席(30日)

伊藤駐BH日本国大使は、イエゼロ市(首都サラエボから北に約 170km)議会議場で行われたイエゼロ市と和歌山県すさみ町の姉妹都市協定締結式(オンライン形式)に出席した。

伊藤大使は、式典でのスピーチにおいて、今回が両国の自治体間で初の姉妹都市協定締結となったことを特に嬉しく思うと述べ、相互訪問も含めた両自治体の交流の活発化に期待を述べた。



(写真:すさみ町の式典の様子)



(写真:伊藤大使とルジチッチ・イエゼロ市長)

3. 経済

(1)経済指標

●第1四半期のBHの失業率、16.7%に(14日)

2022年第1四半期において、2021年第4

四半期と比較して雇用者数は1.9%減少、失業者数は2.2%増加。失業者数は23.1万人(失業率16.7%)となった。

●5月のインフレ率14.4%(28日)

BHにおける5月の個人消費用品の平均価格は前月比で1.1%増加し、前年同月比で14.4%増加した。食料品及びノンアルコール飲料価格は前年同月比22.7%の上昇。

(2)経済政策・公共事業

●燃料となる木材の輸出一時禁止(15日)

BH国内における木材の価格高騰を受け、BH閣僚評議会は燃料となる木材及びペレットの輸出を一時禁止する措置を決定した。

BHにおける木材及び加工品の価格は、昨年比で大幅上昇(燃料材+40%、ペレット+155%、丸太+約400%)している。

(3)経済協力(新型コロナウイルス支援を含む)

●RECOOPERプロジェクトによる小規模デジタルビジネスの誘致(22~23日)

EU、ドイツ政府の出資によるEU4BusinessREcoveryプロジェクトの枠内において、観光分野の活性化を目的としたRECOOPERプロジェクトが実施される。モスタルを中心とするヘルツェゴビナ地方において、就業場所を固定せずに働くことのできる小規模なIT・デジタル関係事業者(ノマドワーカー)に対し宿泊場所、食事、移動手段、観光、アクティビティ等をパッケージ化して提供し、さらに業務に関係するセミナーの実施も計画されている。